

分会ニュース

臆にはまらず、安心して働くためには！

4月29日に管理者が社員を欺き、交番検査中の車両のブレーキライニング取付けボルトと床下フサギ板取付けボルトを勝手に緩めました。そして、陰に隠れ「こそっと」B担当の機器検査を見ていました。緩めたボルトを発見出来ず内藤所長以下、複数の管理者はそれを聞き笑っていたそうであります。これが「教育」ですか！？そもそも、交番検査中であり勝手にボルトは緩めるとは言語道断であります！

この行為は今回が初めてではありません。車両係の若手社員を大二両独自でB担務に任命し、その社員に対して2年前から「試す」行為を「こそっと」と行っていたのです。このような行為を繰り返す管理者の安全意識はどうなっているのでしょうか？

私達がこの行為について質問すると、内藤所長は「教育のため関係者へは周知しており、問題はない」「何が問題あるの」と開き直りました。大阪第二車両所・関西支社はこの件が問題になり、いち早く国土交通省近畿運輸局へ「教育のため無加圧で行っており、安全上問題ない」「管理者が付いていて問題があればその都度指摘している」と虚偽の報告を行っていました。事実は加圧中に佐々木助役が工具室から工具を借り、ブレーキライニング取付けボルトを緩めた際に針金が切れC担務へ針金のキンパク作業を指示したということです。

交番検査に入った車両の部品を管理者たちが計画を立て社員を試すために勝手に異常にするとという行為に対して、現場では管理者への不信と不満が増えています。

今後、この様な行為があるのではという疑心暗鬼の状態では、新幹線の安全を守る交番検査が正常に整然と行えなくなります。

J R 東海労大阪第二車両所分会は、今回の事件を「安全上大きな問題」と位置づけ問題にしてきました。更にはっきりさせるため内藤所長へ「申し入れ」を行いました。しかし、対応した吉岡事務助役や日笠助役は「所長は留守」「お客さんがきている」「ここには組合と話す窓口はない」等と言いながら所長との面会を断りました。内藤所長はこの4日～5日朝の体操にも出ていません。会社は、安全を脅かす行為を行っていながら、一向に明らかにしようとはせず、ほとぼりが冷めるまで逃げ回るつもりなののでしょうか？絶対に許すことは出来ません。

大二両で働く社員・組合員の皆さん。このままでは明日はわが身となります。職場で疑問に思ったら、会社へ声を上げて行きましょう。社員の安全・働きやすい職場にするために！！

追伸：今回の人事異動で内藤所長は東京のSEKに出向になりました（交通新聞による）。

「天網恢恢、疎にして漏らさず」管理者の皆さん！悪い事は出来ませんね！！